

RKKCS TOKYO OFFICE
CONCEPT BOOK ver.2



期待を超越 未来を創る

RKKCS

Beyond Expectations



オフィスリニューアルの計画を開始した 2021 年末は新型コロナウイルスの世界的な流行により、日常の生活と働き方に大きな変革が起きた。その流れの中で、これからのオフィスに求められる要素として『人と会う・集まることで得る一体感』『自宅では満たせない機能性』『非日常感を味わえる高揚感』この3つの要素が新たに求められていく。対面で人と会う・集まることの価値の再定義、自宅ではなく出社して働きたいという充実した機能性、敢えてオフィスに来ることで高揚感を得られる空間を提供することで従業員の方のモチベーションアップに加え、新たな人材へのアピール・将来への投資にも繋がってゆくと考えている。



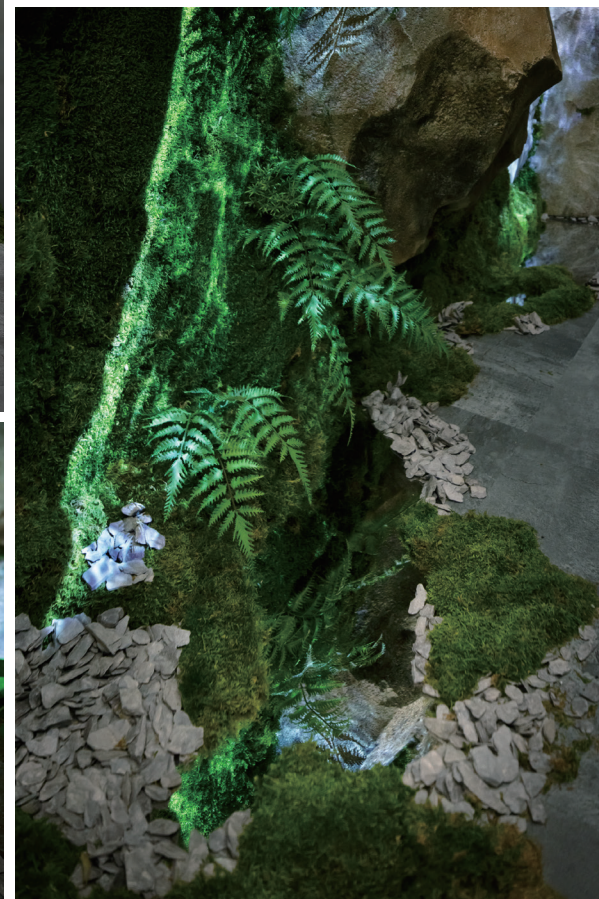
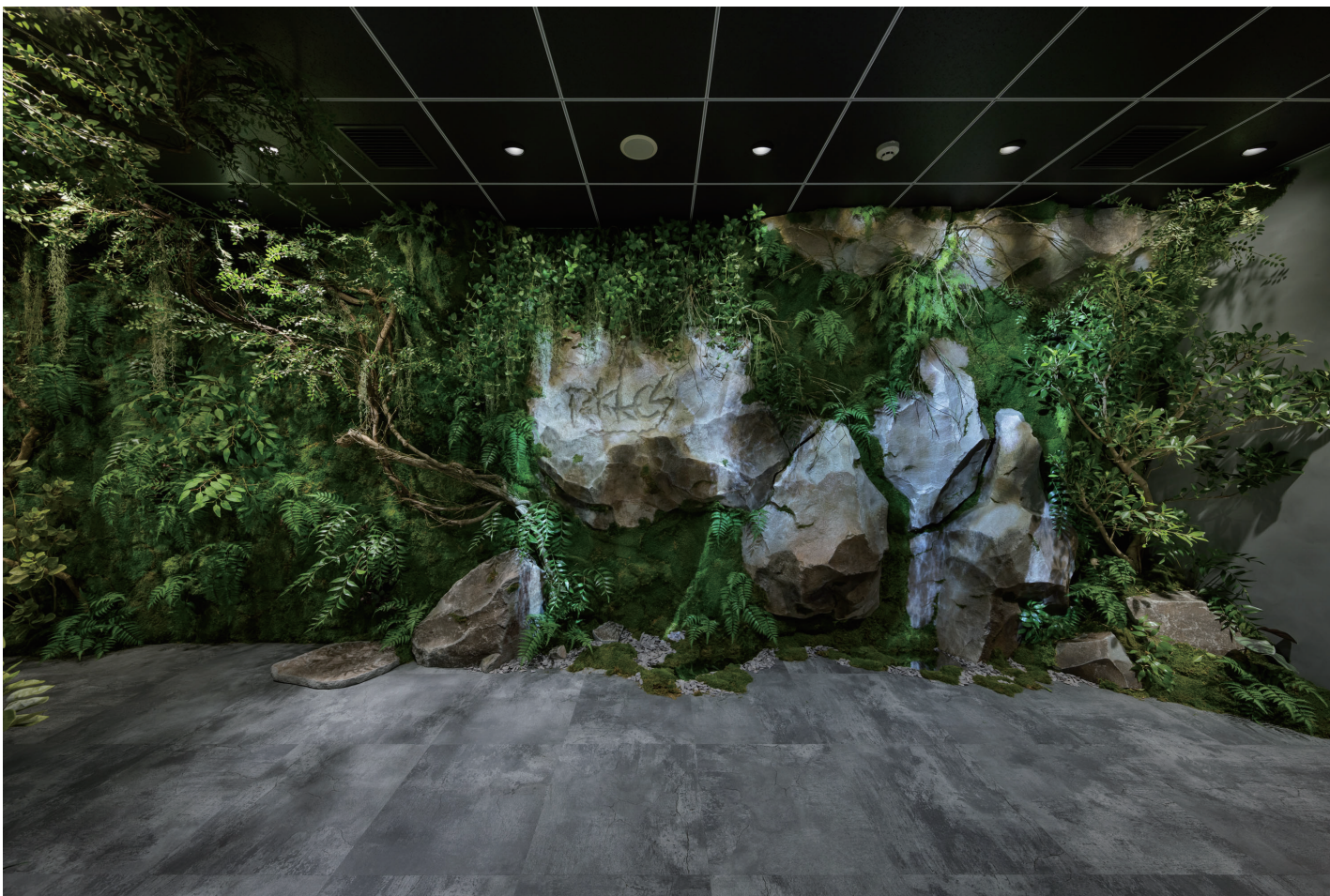
Office Concept Relax in the Park

公園は多目的な誰にでも開かれた自由な空間。芝生で雑談する人、ランニングをして体を動かす人、ベンチでゆったりと読書をする人、緑に溢れた場所で思い思いにリラックスして過ごしている。どこでも働ける時代となった中で、自分たちのオフィスが楽しくなる、集まりたくなる憩いの場のように「公園でリラックスするような」行きたくなる場所へ。



Guest Area Concept: **Rich in nature**

自然の奥深くから、トンネルのように壁面を覆うグリーンを潜ると、明るい空中庭園へとつながるドラマチックなストーリーを軸に空間をデザイン。自然の苔や岩、自生する植物の様子を立体的に再現しており、力強い自然の風景を描いている。



ゲストエントランスは、ネイチャーウォールにプロジェクションマッピングで岩を手掘りしたかのようなコーポレートロゴを投影しており、その背景には滝を表現したマッピング演出でゲストを迎え入れる。リアルとデジタルの融合で唯一無二の世界観を創りあげている。また、プロジェクションマッピングは一日の時間の移ろいや四季に合わせて演出が変化していき、ウェルカム演出として流れる仕組みとなっており、ゲストへ常に新鮮なサプライズを提供する。









ゲストエリア中央には、サプライズ演出の象徴ともなるΦ1,200mmの亚克力でアクアリウム水槽を制作した。ミーティングテーブルと一体化しており、家具としての機能性もしっかりと有している。フランスの画家クロード・モネの代表作『睡蓮の池』を再現しており、睡蓮の葉を自生させ、その周りを複数種の魚や海老が泳ぐ独自の生態系を築いている。全て本物の水草、流木、石等で構成されているため、長い時間を掛けて水景が変化していく。加えて、1時間に1回の頻度で朝靄を想起させる霧の演出でさらなる驚きを与える。



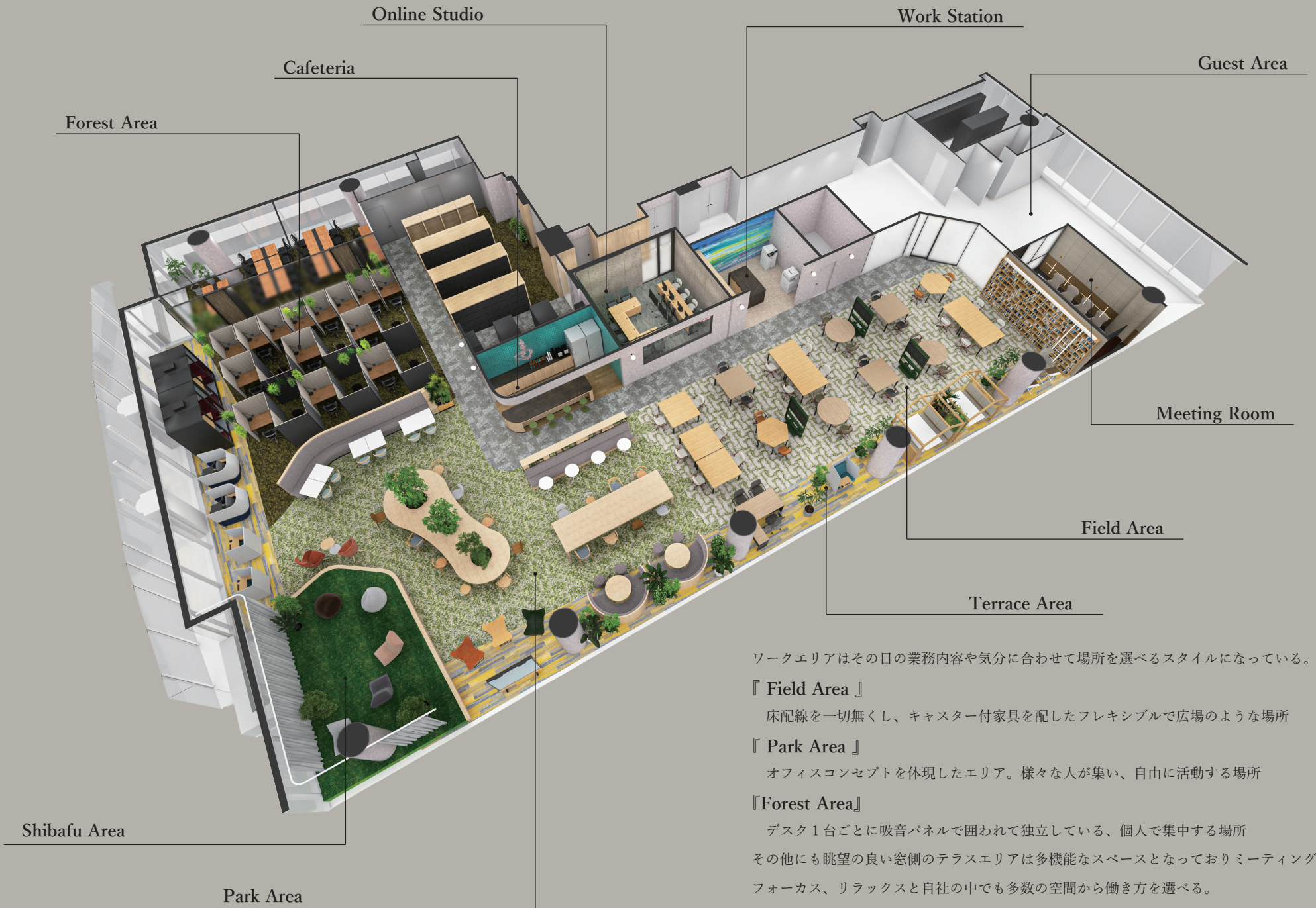




オフィスを構えている千代田区神田エリアは周辺に高層建築がほぼ存在しないため、地上20階から東京23区東部の眺望が隔てる物が一切なく望むことができる。空中庭園を想わせる浮遊感のある空間を目指した。特にナイトビューでは、東京スカイツリーがシンボリックに視界に飛び込み、思わず足を止めて夜景に見入ってしまう特別な空間となっている。



WORK AREA



ワークエリアはその日の業務内容や気分に合わせて場所を選べるスタイルになっている。

『Field Area』

床配線を一切無くし、キャスター付家具を配したフレキシブルで広場のような場所

『Park Area』

オフィスコンセプトを体現したエリア。様々な人が集い、自由に活動する場所

『Forest Area』

デスク1台ごとに吸音パネルで囲われて独立している、個人で集中する場所

その他にも眺望の良い窓側のテラスエリアは多機能なスペースとなっておりミーティング、フォーカス、リラックスと自社の中でも多数の空間から働き方を選べる。

様々な要素が混ざり合う、公園のようなオフィス空間を目指した。



左上・左下 /Field Area 右下 /Forest Area





Park Area



左上下・右上 /Park Area 右下 /Online Studio

RKKCS



Interior design / Sumisho Interior International Inc.

Produce & Interior landscape design / ryokuensha Inc.

Photo / Nacasa & Partners Inc.